

国立大学法人山口大学長の業務執行状況の確認結果について

令和5年3月17日
学長選考・監察会議

国立大学法人山口大学長の業務執行状況の評価に関する規則に基づき、国立大学法人山口大学の運営の適正を図るため、次のとおり学長の業務執行状況を確認しましたので、その結果を公表します。

1. 評価対象期間

令和4年4月から令和5年1月まで

2. 経過

(1) 第72回学長選考・監察会議（令和4年12月22日）

学長の業務執行状況の評価方法やスケジュールについて確認し、次回の学長選考・監察会議において、面談を実施することとした。

(2) 第73回学長選考・監察会議（令和5年2月15日）

次の資料を参考に、学長と学長選考会議委員との面談を行い、業務執行状況について確認を行った。

- ・自己評価書
- ・所信表明書（令和3年8月24日）
- ・監事監査意見書・報告書（令和3年度）【参考】
- ・明日の山口大学ビジョン2030

(3) 第74回学長選考・監察会議（令和5年3月17日）

学長の業務執行状況の確認結果について、最終的な確認を行った。

3. 確認結果

学長選考・監察会議は、上記の経過を経て、令和4年4月から令和5年1月までの学長の業務執行状況についての確認を行った。教育面、研究面及び地域連携面等のそれぞれの項目の中で、特筆すべき取組は以下のとおりである。

教育面としては、文部科学省「地域活性化人材育成事業～SPARC～」に採択され、山口大学、山口県立大学及び山口学芸大学の3大学が一般社団法人やまぐち共創大学コンソーシアムを設立し、ひとや地域（まち・文化・教育）の Well-being に貢献する文系 DX 人材を育成する取り組みは、地域社会において活躍する人材の育成が大いに期待される。また、この SPARC 事業における山口大学の中核的な取り組みとなる新しい学部等連携課程「人間科学共創学環（仮称）」や、人文知と実践的・応用的な領

域を横断する研究教育を行う新しい研究科「人間科学研究科(仮称)」の設置計画は、新しい時代を先導していく人材育成に向けた、注目すべき構想である。また、学長と学生との懇談会「YYトーク」において直接学生の声を聞く企画や、学部学生自らが卒業時に出身高校にハガキを送り、感謝の意を伝えるという企画は、学内外の様々なステークホルダーとの繋がりを育む上で良い取り組みであると感じる。

研究面としては、各種若手研究者支援の施策に注力した結果、JST「次世代研究者挑戦的研究プログラム(異分野融合研究実践型博士後期課程学生育成プロジェクト)」において複数の博士後期課程の学生への支援が実現でき、さらに、JST「創発的研究支援事業」において複数の若手教員が採択されるなど成果を上げている。また、昨年度採択された、文部科学省「先端研究基盤共用促進事業(コアファシリティ構築支援プログラム)」では、学内のみでなく地域ネットワークでの機器共有の効果的な運営に引き続き尽力している。そして、全国共同利用・共同研究拠点化を目指す中高温微生物センターや、新たに教育開発推進部会を設置した山口大学グリーン社会推進研究会の取り組みは、SDGs達成に向け、大学として社会問題に果敢に挑戦している点が評価できる。加えて、スタートアップ人材の育成を強化する「Fun Fun Salon」の設置は、チャレンジ精神を持った学生を具体的に支援する取り組みとして、大いに期待ができる。

地域連携面としては、地方創生を加速する地域未来創生センターの機能を拡充させたこと、そして、「やまぐち地域共創プラットフォーム」「うべ・未来共創プラットフォーム」の2つの地域連携プラットフォームを設立できたことは、多様なステークホルダーとの共創による実社会の課題解決の場を創出でき、「頼られる、頼りになる大学」となるため、非常に有効的な施策だと感じる。

ダイバーシティ面では、JST「ダイバーシティ研究活動実現イニシアティブ事業」によるシンポジウム開催など非常に活発な活動がJSTによる中間報告でのA評価につながり、今後の女性研究者比率や研究力の向上、また、女性上位職登用に大いに期待ができる。

経営面としては、DX担当理事の元に若手職員を中心としたDX推進チームを組織するなど、デジタル技術による効率化・省略化へ向けた積極的な取り組みがみられる。また、運営費交付金における「成果を中心とする実績状況に基づく配分(共通指標)」では、各項目の実績値の向上に努め、令和5年度の配分は前年度に比べ改善するなど運営費交付金の確保に尽力した。加えて、文部科学省「地域活性化人材育成事業～SPARC～」の採択は他のプロジェクト採択に向け大きな弾みとなることが期待される。

これらのことから、「第4期中期目標・中期計画」及びこの度策定された「明日の山口大学ビジョン2030」の達成に向け、「知の創造としなやかな人材の育成により、地域に・世界に貢献する山口大学」を掲げ、多くのことに挑戦し、学長の業務を着実に執行していると判断する。近年の急速な少子化、物価高騰等、大学を取り巻く環境は厳しい状況にあるが、学長がリーダーシップを発揮し、教職員一丸となり、「明日

の山口大学」を見据えた大学の機能強化がより一層着実に行われることを期待している。